



思い出は 成長の証

～ 12月保護者会 ご挨拶 ～

本日はお忙しい中、保護者会にご出席いただき、ありがとうございます。

また、先日も三者面談にお越しいただきました。重ねてお礼申し上げます。

この度の保護者会は、冬休みを前にした学期末、そして令和7年の年の瀬という時期にあたります。二学期の4か月間、そして本年の一年間、本校の教育活動にご理解をいただき、ともに携わっていただきまして、本当にありがとうございました。

来週の終業式にて、生徒たちに、「これまでの自身の成長を数えてみよう」という話をしようと考えております。

一日一日の積み重ねの中では、意識をしてそのつもりで眺めてみないと、成長や変化はなかなか見えにくいものかと思います。それでも、この二学期の4か月間は、春から始まった今の学年や学級もそれぞれの個性を見せ、大きな行事を経験する中で、心も体も大きく変化した時期です。

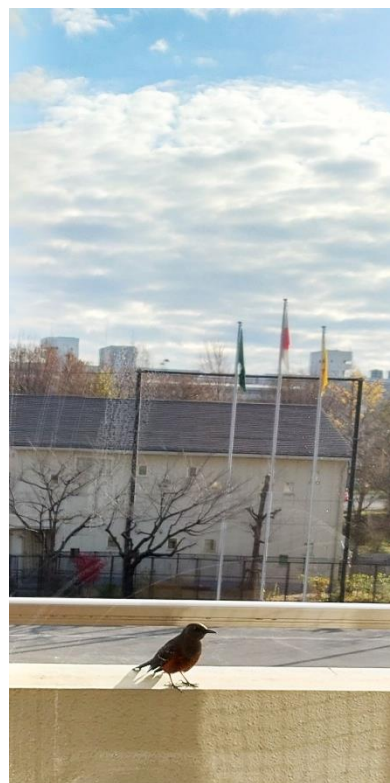
夏休みの頃のお子さんの姿を思い返してみてください。「まだまだうちの子は」などと感じられる方も、4月の入学や進級の頃を思えば、あるいは1年前の今頃を思い返していただければ、「随分と成長したな」と認められる面があるのではないのでしょうか。

とはいえ、子どもたち自身に「自分の成長を数えてみよう」と投げかけても、自分で自分の成長に気付くのは難しいことです。何かことを成し得ていれば、「ああ、あのことか」と思い当たる節があるかもしれません。その場合は、「あの時は頑張った」と胸を張ることができます。

しかし、毎日の中の小さな成長はなかなか実感することができないからです。

そこで、終業式では、「成長を数える代わりに、二学期の思い出を数えてみよう」と話してみようかと思っています。

お子さんは、二学期の生活の中で、楽しかった場面や、頑張ったこと、悩んだ時間など、そのときの気持ちを幾つ数えることができるでしょうか。



校長室窓辺には
ときおり 小鳥がやってきます。

すぐにぱっと浮かぶ場面、そういえばとあとを追って浮かんでくる場面、もうないかなと絞り出して出てくる場面など、それぞれがこの体育館で思い出をたどる姿を想像すると、どのような表情を見せるものか楽しみになってきます。

この、日々の中で心に残った場面は、子どもたちの大切な足跡(そくせき)です。よりよいものを求めて工夫したこと、仲間から受けた感銘、自分と向き合った経験。その一つ一つがこれまでにはなかった新しい学びであると思います。つまり、新たに感じ取れるようになったこと自体が成長であると思います。

私たち子どもを応援する周囲の大人にとって、子どもの成長は何よりの喜びです。

そして、反対に、子どもにとって、成長を認め、喜んでいただける家族がいることは、何よりの喜びになり、将来一人で歩むときのこころの支えになります。

自己肯定につながる、これ以上の場面はありません。

結果だけではなく、そこに至る過程で十分です。

ここまでの経過も成長です。以前はできなかったことに挑戦している姿、あるいは何とかしようと工夫している姿に拍手を送っていきたいと思います。

今この瞬間も、ゴールではなく、明日へ続く道の途中です。

ですから、今の姿を認めて、次の意欲につなげ、ご家庭と学校で足並みをそろえて子どもの気持ちを伸ばしていきたいと、保護者の皆さまにお願いをしたいと思います。

年末のひととき、ご家庭でお子さんと一緒に、成長や思い出を振り返り、生徒が自分を肯定できる時間を、少しでも多くとっていただけましたら幸いです。

本年もお世話になりました。

年が明けて始まる令和8年三学期は、短い期間ではありますが、春の大きな節目に向かう大切な時期です。今後も、ご家庭・地域と学校が連携をしながら、子どもたちを育ててまいりたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

日頃より本校の教育活動にお気持ちをお寄せいただきましてありがとうございます。

12月19日(金)の全体保護者会において、上記の内容でご挨拶をさせていただきました。

12月25日(木)の終業式にて、生徒にも同様のお話をいたします。併せて共有をしていただけますと幸いです。

また、冬休みのしおりの巻頭にも同様の主旨にて生徒向けの文を掲載いたします。保護者の皆さまには、ご覧いただき、お子さんと話題にしていだけますとありがたく存じます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



北風の吹く日も増えてきました。
まもなく、ふくら雀の様相を
見せることでしょう。